

平成25年度 第11回 市民と市長の対話集会 市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成25年(2013年)11月21日(木)
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 花水公民館 2階ホール
- 3 テーマ 花水地区のまちづくり
- 4 出席者 参加者11名 傍聴者18名



花水公民館での集会の様子

5 市長あいさつ

皆様、こんばんは。本日は夜遅い時間、お勤めの後などにも関わらず、対話集会にお集まりいただき厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

地域に直接伺って地域の課題や御提案をお聞きし、市政への反映を考えるため、平成23年4月の就任以降、毎年このような機会を設けさせていただいています。平成23年3月11日には東日本大震災がありました。そこで、平成23年度は防災対策をテーマに市内4か所にてほっとミーティングを開催させていただき、この花水公民館にも平成23年11月4日に伺いました。参加者の皆様からは防災対策に関する意識の高い御意見をいただき、熱心な討論をさせていただきました。改めて御礼申し上げます。

毎回お話をさせていただきますが、平塚市の各地域には歴史や文化、人材など、豊富な地域資源があります。それぞれの地域において、地域の課題を捉えてまちづくりに取り組んでいただくことができれば、地域の輝きは増し、地域の集合体である平塚市はさらに発展すると考えています。行政も市民サービスを展開しながら、地域の活動をお支えさせていただきます。そのために、平成24年度からはこの対話集会においても、地区自治会連合会単位にて、地域のまちづくりをテーマに開催させていただいています。実は、2年間かけて地域に伺ってきたこのほっとミーティングも、本日この花水地区での開催が最後になります。皆様からいただく地域に関わる課題や御提案を持ち帰り、市政への反映を検討させていただきたいと思えます。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思えます。その際には、事務局から担当課に確認して皆様にフィードバックさせていただきます。花水地区の皆様には地域に対する深い愛情があります。どうぞ、忌憚のない御意見をよろしく願います。

6 主な対話集会の内容

① 地域の活性・開発について

【参加者】

全国的な課題ですが、平塚市の人口も減少しています。平塚駅に近いこの花水地区でも、空き家や空き部屋が目立ちます。平塚市は環境が良く、横浜や東京への交通も便利などとも暮らしやすいまちですが、まちの良さが伝わっていないように思います。藤沢市や茅ヶ崎市が取り組むシティプロモーション（地域の魅力を創造し、それを地域の内外へと広めること）なども、まちの活性化には必要なことです。

【市長】

神奈川県において、横浜市や川崎市、藤沢市を除いた市町村では、軒並み人口の減少が起きています。平塚市においては、最高約26万2,000人まで増えた人口も、この10月1日現在、約25万8,200人になりました。微減ではありますが、毎月1桁から2桁の人口が減っています。少子高齢化による自然減に対し、社会増が少ない状態です。また、労働人口の減少によって税収が減ることは、自治体にとっても大きな影響があります。若い世代を中心とする人口の増加を図ることも、安定した市政を進めるために大切な取り組みです。

シティプロモーションについて、平塚市ではまちを売り出すためのコンセプトづくりまでは進んでいないのが現状です。度々、平塚市には良いものが多いにも関わらず、情報の発信が上手でないとされます。他市町の取り組みを十分に参考にし、平塚市の良さをアピールして知っていただくことが必要です。

【参加者】

平塚市には、若者が魅力を感じるものが足りないように思います。この花水地区を含む海岸地域の特徴を生かした賑わいが生まれれば、魅力を感じた若者が平塚市に集まってくれると思います。さらに、今は公園や施設があるだけでは決して流行りません。訪れるところにいる人やイベントに魅力を感じます。大磯町で行われている大磯市は毎回とても盛況で、地域活性化の成功例だと思います。例えば、ネーミングライツによって湘南ベルマーレの名前が入ったビーチパークは平塚市の魅力です。ビーチパークを利用して全国に向けたイベントを開催すれば、多くの若者が訪れてくれると思います。

【市長】

御指摘いただいたとおり、まちの活性化には魅力づくりやイベント性を考える必要があります。平塚市においても、総合公園などでは定期的にイベントが行われています。この地域には伝統的な村井弦斎（むらいげんさい）まつりもあり、海や磯の大変良いイメージもあります。地域の素晴らしい環境を生かした雰囲気づくりについても、地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

【参加者】

平塚駅から南側の地域にはマンションが多くなり、大きな空き地には決まってマンションが建設される気がします。マンションには人が密集して急に人口が増えます。今でさえ、市内随一のマンモス校である花水小学校ですが、マンション建設による急な子どもの増加により、花水小学校が子どもを受け入れきれなくなるのではないかと心配です。マンションの計画的な建設や規制が必要ではないでしょうか。

【市長】

建物には地域ごとに高さの制限はありますが、条件に合った開発には許可が出ることを御理解ください。しかし、事業者が開発を進める際、景観を損ねることなど問題が起きないように、事業者への指導や調整をして地域の皆様との協調を図ることも行政の仕事です。子どもが増えることはとても良いことですが、御意見のとおり、花水小学校や浜岳中学校はマンモス校です。新たに学校を建てることは難しいことですが、教育委員会からは、児童や生徒の増加による学区再編の検討は必要であるとの報告を受けています。具体的な学区の線引きは決まっていますが、今後検討が必要になる課題として捉えています。

【参加者】

黒部丘の地域にマンションが建設される時に地域では反対運動がありましたが、反対運動はマンションの住民とは関係ありません。そこで、我々自治会では歓迎会を開催しました。歓迎会には多くのマンションの住民が来てくれ、地域住民との交流だけでなく、マンションの住民同士の交流も生まれたようでした。今年の夏祭りにも、マンションの住民を含む多くの方が参加してくれて大変盛況でした。今後も、歓迎会などによる地域行事に参加しやすい雰囲気づくりを地域の活性化につなげたいと考えています。

黒部丘には歓迎会などを行うことができる大きな公園がありません。また、高齢者などは地域行事のために遠くまで行くことはできません。そこで、J T

(日本たばこ産業)の緑地を借りて歓迎会などを開催しています。黒部丘の中心地にあるJTには御理解いただき、地域活動に協力していただいています。先日発表された工場の閉鎖は地域にとっても大変心配です。できれば、今後の跡地利用においても、地域への協力を検討してほしいと思います。

【市長】

企業訪問にてJTに伺った際、地域の活動に御協力いただいているお話を伺いました。企業理念として地域貢献を捉えていただけているJTには、企業が一体となったまちづくりに取り組んでいただいています。

JTの平塚工場については、この平塚市にて約70年間操業されてきました。10月の終わりに、4つの工場と製造事業部の閉鎖、支店の集約、約1,600人のたばこ事業に関わる従業員の削減による経営改善が発表されました。工場については、約2年半後に閉鎖したいとお話でした。早速、私は本社の社長を訪ねました。跡地利用の考えを伺うとともに、工場閉鎖による平塚市や地域への大きな影響を考え、JTが行うたばこ以外の事業をこの平塚市にて展開してほしいとお願いしました。さらに、違う事業を行うのであれば、ぜひ平塚市と一緒にまちづくりを考えてほしいという考えもお話ししました。例としては、日産車体工場跡地の開発です。今、日産車体工場の一部は閉鎖に伴い、三井不動産による商業施設を中心とした開発が進んでいます。平成28年の秋くらいには、大きな商業施設を中心としたまちが生まれます。この開発には、日産車体の御協力をいただき、平塚市と一緒にまちづくりを考えさせていただきました。JTの社長からも、閉鎖までの2年半をかけて平塚市と一緒に跡地利用を考えたいと言っただけでした。もちろん、JTの土地なので、JTの意思を尊重する必要がありますが、地域の皆様の御意見も伺い、平塚市や地域にとっても有効な場所となるよう、考えていきたいと思っています。

② 防災・防犯・安全について

【参加者】

東日本大震災から約2年7か月が経過しました。花水地区は海に近いため、地震による津波が心配です。平塚市の津波対策や防災対策について聞きたい。

【市長】

これまで、津波対策を中心とする様々な防災対策を行ってきました。まず、津波避難は遠くよりも高くということで、津波避難ビルの指定に取り組んでおり、現在71か所まで増やすことができました。自治会と建物の持ち主、行政とで取り交わす協定においては、自治会の皆様に大変御協力いただきました。市のホームページでは地図上で津波避難ビルの位置をお示しし、実際の建物にはステッカーが貼られています。線路より南側の地域には、約4万5,000人の方が住んでいます。この71か所の津波避難ビルによって約6万8,300人の避難場所が確保できました。他にも、広報無線を兼ねたラジオを自治会にお配りし、海拔表示も増やすことができました。県の想定における平塚市に最も被害が及ぶと考えられる津波は、元禄型関東地震と神縄・国府津－松田断層帯の連動地震発生19分後に約6.9メートルの津波が予測されます。国道134号の高さが約8メートルあるため、国道を越える津波の被害は想定されませんが、津波が川を遡上する可能性はあります。遡上した津波による低地への浸水被害が想定されるため、河川を管轄する県には堤防のかさ上げも要望しています。今後も万全を喫するため、防災対策の強化を図っていきます。

【参加者】

社会福祉協議会において、毎年話題になることが災害時要援護者の支援です。年に1回開催する障がいのある方との懇談会では、車いすを利用される方など、災害時に支援を必要とする方の避難が課題にあがります。現在の登録制度には、情報の把握が不十分な点など課題があります。今後の災害時要援護者への対応について聞きたい。

【市長】

各地域でほっとミーティングを開催すると、必ずこの話題をいただきます。災害時要援護者の方への支援は大きな課題です。地域では、要援護者の方の情報把握が不十分な状況が続いています。自治会や社会福祉協議会、民生委員児童委員の皆様には御協力いただき、災害時要援護者登録制度を進めています。登録のために支援者が必要なことなどが課題になっています。そこで、現在、地域で要援護者の方を支援する体制づくりに取り組んでいます。緊急時に

は、民生委員の皆様からいただいた要援護者の方に関わる情報を地域にお出しすることで、地域による要援護者の方の支援につなげていただく方法を考えています。

9月21日には県と市の合同総合防災訓練「ビッグレスキューかながわ」を実施しました。訓練には県知事も参加しましたが、すべての自治会に自主防災組織が編成される充実した平塚市の共助の体制に驚かれ、感銘を受けていました。また、県立平塚工科高校で行った津波避難訓練では、生徒の若い力によって高齢者の方などを高いところに避難や誘導する訓練も行っていました。このように、災害時要援護者の方の支援も含め、地域を地域で守る共助のための仕組みづくりには、今後も力を入れて取り組んでいきたいと考えます。

【参加者】

震災には火事などの被害も想定されます。また、最近では集中豪雨による被害も甚大です。緊急時の避難場所になると思われるこの花水公民館の周辺も、戦前の記録では水浸しになったことがあります。これからは、複合型の災害への対応も必要になります。

【市長】

津波ハザードマップと内水ハザードマップを作成させていただきましたが、避難した先が水浸しでは意味がありません。昨年の7月と今年の4月、集中豪雨による金目川の急激な増水によって堤防が一部損壊してしまいました。河川の管轄は県ですが、市民の皆様のお安心安全対策は市が行うことです。これまで、金目地区には指定された避難所に行くために、橋を渡らなければならない地域がありました。氾濫する金目川を渡ることは大変危険です。そこで、川を渡る必要がない場所に一時避難所を設けさせていただきました。複合型の災害を想定すると、このような対応が必要になります。御意見いただいた視点を大切に、今後の防災対策に生かしていきたいと考えます。

最近では集中豪雨が多くなりました。下水道計画では、時間50ミリメートルの雨に対応できるような対策を行っていますが、最近では時間100ミリメートルに及ぶような大雨が降ることもあります。低地で水が溜まりやすい場所では、下水道の管を太くするなどの対策も行っています。また、大雨による災害に備えた職員配備についても、従来よりも1段階早い対応に努めています。10月には2週続けて台風が来ましたが、防災や土木の担当においては、早急な配備を行いました。これからも、市民の皆様のお安心安全のため、迅速な配備や対応を行っていききたいと考えます。

【参加者】

最近は振り込め詐欺の被害をよく聞きます。平塚市では、この南側地域での被害が多いそうです。また、平塚市には治安が悪いイメージがあるようです。防犯対策を進めることも、大切なまちづくりです。

【市長】

警察や防犯協会との連携や地域の取り組みによって犯罪自体が減っている中、振り込め詐欺の被害は増加しています。市役所や税務署の職員をかたり、医療費の還付などの話から騙す被害が横行しています。「ほっとメールひらつか」では、実際にあった振り込め詐欺などの内容を配信しています。登録方法については、確認して御連絡させていただきますので、御利用くださるようお願いいたします。このメールや啓発などを通して犯罪に対する意識を高めることで、詐欺に遭わない体制づくりに取り組んでいます。

治安について、殺人事件や七夕まつりでの発砲事件など、平塚市には治安が悪いイメージがあるようです。体感治安が悪い、このイメージを払しょくするため、防犯対策に力を入れています。また、犯罪抑止のための防犯カメラが話題になっています。県からは設置に関わる補助もはじまりました。警察からも依頼があって中心街には設置されていますが、今後、学校など事件が起きる可能性がある場所において、防犯カメラ設置検討の必要性を認識しています。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

「ほっとメールひらつか」の登録については、①「メールアドレスの登録」②「配信ジャンルの登録」の2段階の登録手順により「ほっとメールひらつか」の配信が開始されます。登録手順の詳細は次のとおりです。

①「メールアドレスの登録」

■パソコンからは、SCNウェブサイト【湘南生活安全情報】easy pocket にアクセスし、画面の左側にある「メール配信登録はこちら」からメールアドレス登録用ページを表示して登録してください。

★パソコン用サイト・・・<http://scn-net.easymyweb.jp/pocket/>

■携帯電話からは、SCN携帯ホームページのeasy pocket／湘南生活安全情報にアクセスし、「湘南生活安全情報登録へ」からメールアドレス登録用ページを表示して登録してください。

★携帯用サイト・・・<http://scn-net.easymyweb.jp/pocket/k/>

<参考>本市ホームページ、本市携帯サイトからも上記のパソコン用サイト、携帯用サイトを表示できます。

★平塚市ホームページ・・ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>
トップページ右側にある「市からの情報配信」ボタンをクリック→ツイッター・メール配信ページ<ほっとメールひらつか>「配信ジャンルの説明、登録方法などの詳細ページへ」をクリック→「ほっとメールひらつか」（メール配信サービス）について<登録方法>から「パソコン用サイト」「携帯電話用サイト」いずれかをクリックして上記のパソコン用サイト、携帯用サイトを表示して登録してください。

★平塚市携帯サイト・・・ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/i/>
トップページ<ツイッター・メール配信>「詳細ページへ」をクリック→ツイッター・メール配信ページ<ほっとメールひらつか>「配信ジャンルの説明、登録方法などの詳細ページへ（外部リンク）」をクリックして上記のパソコン用サイト、携帯用サイトを表示して登録してください。

②「配信ジャンルの登録」

メールアドレス登録後、登録したアドレス宛に登録確認メールが届きますので、メール本文にあるURLをクリックし、配信を希望するジャンルを選択して更新を完了してください。なお、登録後にも、受信希望ジャンルを変更することができます。（振り込め詐欺に関する情報は「平塚市防犯情報」で配信していません。）

●参考：『ほっとメールひらつか』とは

生活に身近な情報や緊急情報等を、あらかじめ登録した携帯電話やパソコンなどへ電子メールで配信するサービスです。このサービスの利用料・登録料は無料です。ただし、配信の登録・変更・削除設定、及びメール受信にかかる通信用料・インターネット接続費用は、利用者の負担となります。なお、電子メールの配信は、湘南ケーブルネットワーク（株）の easy pocket サービスを利用して配信します。（easy pocket とは、ケーブルテレビ局から配信されるお知らせサービスです。）

（事務担当は情報政策課情報政策担当）

【参加者】

交通安全協会の花水支部長をしています。交通指導員は、花水小学校児童の登下校時の見守りや月に1回地域内の安全パトロール、学校行事や地域イベントの交通整理を行っています。6人で活動していますが、高齢化が目立ちます。活動を引き継いでくれる後継者が必要ですが、ボランティアのために人が集まりません。他の地域においても、同様の課題があるようです。地域の安全を守る活動の認知度を上げるため、行政からも広報を行ってほしいと思います。

【市長】

平塚市において、前年度は交通死亡事故が0件でした。26万市民がいる自治体では大変珍しいことで、市の交通安全対策協議会は県から表彰を受けました。これは地域の皆様の交通安全に対する取り組みのおかげでもあります。本当にありがとうございます。これからも、この体制を維持していく必要があります。安心安全を地域で守るということを広めながら、活動のすそ野が広げられるよう、行政も取り組んでいきたいと考えます。

また、登下校時の子どもの事故が問題になっています。各学校では危険なところを調査し、その結果を受け、教育委員会、関係機関等において合同点検を行い、側線の敷設や横断歩道の塗り直しなどの対応を進めています。引き続き、子どもを含めた市民の皆様の安全対策には力を入れていきたいと考えます。

③ 教育・福祉・経済について

【参加者】

障がいのある子どもを育てていますが、施設に閉じ込めるのではなく、将来社会の一員として地域で暮らせるように育てたいと考えています。しかし、今の障がい児教育について、選択肢が広がったことは良いですが、予算が十分でないために中身が整っていません。私の子どもは普通学級を選択しましたが、特に花水小学校のような大きな学校では、普通学級に通う障がいのある子どもへの支援が不十分です。学校に行き、普通学級では支援を受けられずにじっと耐えて帰るだけです。この状況は他の子どもも見ており、このまま中学校に行くと、いじめの対象になる可能性さえあります。普通学級に通う障がいのある子どもの支援のため、予算を増やす検討をお願いします。

【市長】

障がいのある子どもも、他の子どもと同様に学校生活を送ることが一番良いと考えています。教育委員会においても、障がい児教育には一生懸命取り組んでおり、学習支援補助員を各学校に配置しています。普通学級を選択した障がいのある子どもへの支援の充実については、教育委員会にも御意見をお伝えさせていただきます。

学校だけでなく、平塚市は障がいのある方もない方も生き生きと生活できるまちになる必要があります。高齢化社会においても、まちのバリアフリー対策は大切です。先日、平塚駅西口の南側にエレベーターが設置されました。急な階段を利用せず、改札まで向かうことができるようになりました。現在は北口のバリアフリー対策について、ステーションビルと協力しながら進めているところです。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

厳しい財政状況の中、平成25年度のサン・サンスタッフ（学習支援補助員）については、若干名ではありますが人員増員をしています。学校現場の状況や実施計画等により、引き続き事業全体の充実を図るとともに、適正な配置に努めてまいります。今後も児童・生徒ひとりひとりにきめ細やかな対応ができるよう、環境整備に努力いたします。

（事務担当は教育総務課教職員担当）

【参加者】

子ども会の会長をしています。私が子どもの頃、子ども会は当たり前のようにあり、非常に良い経験をしました。桃浜町では任意の会に全員が参加してくれて盛り上がりを見せていますが、市内全域において、子ども会は減少傾向にあります。今の若い親子はとてもアクティブで、イベントや施設があれば積極的に出かけます。行く先には同じ目的の人が集まるため、当然、コミュニケーションはとりやすく、良い関係が作りやすい環境です。しかし、私が考える子ども会の良いところは、偶然隣や近所に住む人と同じ集合体になって同じことをするところです。子ども会は他者との違いを知って関わる方法を身につける場や機会だと思っています。子ども会の活動を通して、様々な出会いや違いを認め合える環境を与えてあげたいと思います。

【市長】

御意見のとおり、子ども会は減少傾向にありますが、異世代との交流や関わり、学年を超えた体験はとても有意義なものです。例えば、大神地区ではすべての地域行事に子ども会が関わっています。地域づくりの意識を養ってもらうためにも、子ども会の活動は重要です。平塚市青少年問題協議会では、これからの子ども会のあり方を検討しています。課題は役員の担い手がないことです。青少年指導員や地域の皆様のお力でバックアップしていただき、子ども会の活動を盛り上げてほしいと思っています。決してなくなってはならない活動ですので、行政も支援を続けていきたいと考えています。

【参加者】

花水地区社会福祉協議会では、高齢者の見守りに力を入れて取り組んでいます。以前から、ふれあい訪問と銘打って地域の高齢者を見守ってきました。200人以上の申し込みがある活動です。誕生日にお茶を配りながら訪問していますが、安心安全のための見守りは1年間に1回では足りません。ここで、市からは見守り歩数計などの施策が講じられましたが、地域では4人から5人しか利用していません。有料ですがとても効果的なものだと思うので、利用が広がってほしいと思います。

【市長】

皆様のお力で見守りを行っていただけることを大変ありがたく思います。実は、崇善地区で開催したほっとミーティングにおいて、独居高齢者の方が亡くなって数日後に発見されたというお話を伺い、これからは見守りの仕組みが必

要であるとの御意見をいただきました。そこで、4月から、センサー付きの万歩計や緊急連絡システム、GPS機能によって居場所がわかる機械を導入しました。使用料については、受益者負担の考えから、月に400円を設定させていただきました。利用者が増えるよう、周知を充実していきたいと考えます。他にも、新聞配達会社やガス会社、郵便局、信用金庫とも協定を結び、見守りの体制づくりに取り組んでいます。できるだけ多くの目で高齢者の方を見守ってきたいと考えます。

また、花水地区は市内2番目の町内福祉村に取り組んでいただきました。高齢者の方の身近な生活支援などを行っていただいています。ここで、吉沢地区にも町内福祉村ができ、市内13か所に町内福祉村は整備されました。町内福祉村についても、地域の特性に合った方法で進めていただけたら本当にありがたいと思います。

【参加者】

花水商店街はきれいな商店街ですが、シャッターが閉まっているお店が多いように思います。駐車場がないことなど課題はありますが、地域経済の発展には商店街の活性化は欠かせないと思います。

【市長】

郊外の大きなスーパーマーケットなどによって地域商店街の活気はなくなってきていますが、私は地域商店街の意義はまだあると考えています。地域と一体になった商売が地域商店街の魅力です。今、高齢化社会が進む中、買い物難民という課題も生まれてきました。この課題の解決においても、地域商店街の持つ地域との関わりが問題解決の重要な要素になると考えています。遠くまで買い物に行くことができない高齢者の方への食料品などの提供と同時に、高齢者の方の見守りという相互にとって必要なものになる可能性があります。これからも、様々なつながりの中で、地域商店街の活性化を考えていきたいと思います。

④ まちづくりセンターについて

【参加者】

本日のほっとミーティングであがった自治会や子ども会、学校などの課題は、総じて地域の課題であると感じました。これらの課題は、現在落合市長が掲げる公民館のまちづくりセンター化の実現によって解決できる、または、解決のための取り組みが行えることだと思います。地域の課題や情報をまちづくりの拠点に集約し、地域の住民が共有して生かすことにより、地域の発展につながるができるのではないのでしょうか。

【市長】

御意見ありがとうございます。平塚市は全国でも珍しく、概ね小学校区に1館ずつ公的な公民館があります。平塚市の公民館は行政が立ち上げ、地域の方に館長を担っていただき、市職員を配置しています。公民館のまちづくりセンター化とは、地域情報の受発信や地域課題解決のための活動など、地域の皆様によるまちづくりのため、各地域にある公民館を活用しようという取り組みです。行政は地域の活動を支援するための予算をお出しすることも考えていきたいと思っています。このまちづくりセンターは、地域の皆様によって地域の魅力を高め、問題を解決する仕組みとなると考えます。例えば、なでしこ地区における地域の皆様による公園管理の仕組み、吉沢地区における神奈川大学の学生による子どもたちへの教育支援などの取り組みもはじまっています。地域の皆様が主人公となるまちづくりを進めるため、公民館のまちづくりセンター化にも力を入れて取り組んでいきたいと考えます。

7 市長によるまとめ

本日はありがとうございました。花水地区を愛し、地域の発展を想う皆様の御意見を伺えたことを本当にありがたく思っています。今後もさらなる魅力が図れるよう、行政も一緒に歩んでいきたいと思えます。

皆様からいただいた御意見については、持ち帰って市政の参考にさせていただき、回答もお返しさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 21件（参加者 9件 傍聴者 12件）】

参加者・傍聴者について

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
0名	1名	5名	4名	7名	4名	0名

性別

男性	11名
女性	10名
回答なし	0名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	3名	3名	6名
ポスターやチラシ	0名	2名	2名
町内会など地域から	3名	4名	7名
市ホームページ	3名	3名	6名
その他	0名	0名	0名
回答なし	0名	0名	0名

質問2 市長との対話はいかがでしたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	2名	3名	5名
まあよかった	7名	6名	13名
どちらともいえない	0名	1名	1名
あまりよくなかった	0名	0名	0名
よくなかった	0名	1名	1名
回答なし	0名	1名	1名

質問3 本日の対話集会のご感想や運営へのご提案等について。

回答

- ・地域の課題は地域で解決すべきです。「まちづくりセンター」の構想には非常に興味があります。
- ・もう少し、じっくり対話を行いたかった。
- ・今後も継続して開催してほしい。
- ・これまで地域とのつながりがなかったので、参加していきたい。
- ・貴重な機会をありがとうございました。
- ・同じ地域の人との意見交換はとても有意義でした。
- ・子どもの手本となるよう、行動していきたいと思った。
- ・テーマをしぼって開催してほしい。
- ・障がいのある方への支援を取り組んでほしい。
- ・参加者の意識が大変高いと思った。
- ・まちづくりには、様々な課題があると認識した。
- ・わかりやすいお話でした。
- ・今後、まちづくりの一員として役に立ちたい。
- ・平塚市に対し、これほどの意見があることに感心しました。